



作品「見上げてごらん夜の星を」(左)と書道パフォーマンスの様子(右)

書の甲子園で大賞を受賞した

## 五十嵐 柚季さん

いがらし・ゆき  
北広島高校3年。札幌市在住。  
同校書道部に所属。昨年の第22回国際高校生選抜書展で、おとこの秀作賞に続き大賞を受賞。



### 今を時めく18歳

辺りに墨の香りが立ち込める北広島高校の書道教室。壁いっぱいには部員たちの作品が貼つてある。そこへ、一人の生徒が静かに入ってきた。優しいほほ笑み、ふんわりとした雰囲気の中にも、芯の強さを感じさせる女性だ。

五十嵐柚季さん。昨年、第22回国際高校生選抜書展・通称「書の甲子園」で大賞を受賞した。宮崎駿監督の映画「風立ちぬ」の主題歌で、歌手の荒井由実さんの「ひこうき雲」の歌詞を書いた。「女の子が弱さを見せずに好きな人のために頑張るといふストーリーに、歌声がびつたり。感動してこの歌詞を選びました」と話す。

### 3年間の書道活動

小学2年から書道を習い始めた。北広島高校が書道で有名

名であることを知り入部。書道部は素の自分でいられる場所だったという。「私は人見知りで心を開くのに時間がかかるんです。でもここにいると、家族といえるみたいになりラックスできました」と振り返る。これまで、高文連書道展や北海道学生書道展など多くの大会に出品し、優秀な成績を収めてきた。大型商業施設や福祉施設で「書道パフォーマンス」と呼ばれる、観客の前で音楽に合わせて字を書くイベントにも取り組んだ。同校向かいのレクリエーションの森で、木漏れ日を浴び、鳥のさえずりを聞きながら作品を楽しんでもらう「森の中の書道展」も仲間と創り上げた。

### 書道から得たもの

一人で黙々と書くことで身に付いた集中力。書道パフォーマンスで学んだ協調性。そして何より本人が成長したと

# 書道が教えてくれた 仲間との絆



実感しているのは、人に気配りができるようになったこと。「受賞する人もしない人もいます。賞も大事ですが、それが全てではない。仲間がいるから頑張れるのですから」と、仲間の大切さをしみじみと語る。「否定をしない。認め合いみんなで成長していく」が合言葉だそう。

### 等身大の女子高生として

普段は一人の女の子として、どんな素顔を持っているのだろうか。「愚痴は言わないように心掛けています。つらいときも、なるべく笑って楽しんで過ごしたいと思っていきます」とさらり。「字は人なり」と言うが、五十嵐さんの字には、困難や障壁を乗り越えてきた成長の軌跡が、にじみ出ているように感じられる。

### 北広島島の思い出

3年間北広島の地を踏んで

景色を眺めてきた五十嵐さん。印象を聞いた。「空気がきれい。下校時、坂を下りると西の空に夕日が見える風景が好きです。星もきれいです。よく写真を撮ります」。美しい自然環境を堪能したようだ。「遊べる所は少ないけれど、楽しめます。いい友達や気の合う人が多かったです。北広島はみんなに自慢できるまちです」と高校生活を満喫したことを教えてくれた。

校舎の3階の踊り場に、五十嵐さんの作品が飾られている。題材は、「見上げてごらん夜の星を」。五十嵐さんの心のキャンバスには、北広島の満天の星が描かれているのかもしれない。その星明りは、彼女の未来を照らし出して見守ってくれることだろう。

最後に、北広島で過ごした青春はどうでしたか？ と聞いてみた。胸を張って答えてくれた。「最高です！」